



南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区目標

すべての命を守るため、
キリストと共なる
平和の道を歩みましょう。

〒902-0067 那覇市安里3-7-2

カトリック那覇教区本部

TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474

発行人 W.F.バートン司教 1部40円

<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2020年2月1日 (毎月1日発行)

カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ

第735号 (2月号)

二月、私たちは毎年十一日に
那覇教区の創立を記念して共に
集い、感謝の祭儀に与ります。
ご周知の通り、この日は故ペ
トロ・パブチスタ石神忠真郎司
教が司教に叙階され、那覇教区
が誕生した日として記念されて
います。

また、この記念日には、教区
内で働く司祭、修道者の叙階、
修道誓願金祝、銀祝に加え、信
徒の金婚式もお祝いするように
なってきました。

教区の誕生を祝う一方で、年
頭の司教メッセージ、教区目標
に、「すべての命を守るため、
キリストと共なる平和の道を歩
みましょう」と謳われているよ
うに、私たちは一人ひとりとし
て、そして教区として、共に神

頭の司教メッセージ、教区目標
に、「すべての命を守るため、
キリストと共なる平和の道を歩
みましょう」と謳われているよ
うに、私たちは一人ひとりとし
て、そして教区として、共に神

頭の司教メッセージ、教区目標
に、「すべての命を守るため、
キリストと共なる平和の道を歩
みましょう」と謳われているよ
うに、私たちは一人ひとりとし
て、そして教区として、共に神

頭の司教メッセージ、教区目標
に、「すべての命を守るため、
キリストと共なる平和の道を歩
みましょう」と謳われているよ
うに、私たちは一人ひとりとし
て、そして教区として、共に神

頭の司教メッセージ、教区目標
に、「すべての命を守るため、
キリストと共なる平和の道を歩
みましょう」と謳われているよ
うに、私たちは一人ひとりとし
て、そして教区として、共に神

頭の司教メッセージ、教区目標
に、「すべての命を守るため、
キリストと共なる平和の道を歩
みましょう」と謳われているよ
うに、私たちは一人ひとりとし
て、そして教区として、共に神

頭の司教メッセージ、教区目標
に、「すべての命を守るため、
キリストと共なる平和の道を歩
みましょう」と謳われているよ
うに、私たちは一人ひとりとし
て、そして教区として、共に神

頭の司教メッセージ、教区目標
に、「すべての命を守るため、
キリストと共なる平和の道を歩
みましょう」と謳われているよ
うに、私たちは一人ひとりとし
て、そして教区として、共に神

頭の司教メッセージ、教区目標
に、「すべての命を守るため、
キリストと共なる平和の道を歩
みましょう」と謳われているよ
うに、私たちは一人ひとりとし
て、そして教区として、共に神

頭の司教メッセージ、教区目標
に、「すべての命を守るため、
キリストと共なる平和の道を歩
みましょう」と謳われているよ
うに、私たちは一人ひとりとし
て、そして教区として、共に神

頭の司教メッセージ、教区目標
に、「すべての命を守るため、
キリストと共なる平和の道を歩
みましょう」と謳われているよ
うに、私たちは一人ひとりとし
て、そして教区として、共に神

頭の司教メッセージ、教区目標
に、「すべての命を守るため、
キリストと共なる平和の道を歩
みましょう」と謳われているよ
うに、私たちは一人ひとりとし
て、そして教区として、共に神



那覇教区の保護者
「聖マリアの汚れなき御心」
私たちのために祈り下さい

2月11日
教区の日

那覇教区の誕生を祝い感謝し、また
私たちの宣教の使命を共に祈りましょう！

教区の日 記念ミサ・祝賀会

- 日時 2020年2月11日(火) 午後2時
- 場所 カトリック安里教会

教区の日にあたり、節目の年を迎える(迎えた)方々のために感謝ミサを捧げ、祝賀会を行います。大きな喜びのうちに、祈り、祝福し、教区誕生の日を祝いましょう。

カトリック那覇教区長 ウェイン・F・バートン司教

- ◇金婚式を迎えられる方々
 - ・久保田富雄・陽子夫妻 (小禄教会)
 - ・石垣吉民・幸子夫妻 (石垣教会)
- ◇ダイヤモンド婚(60周年)
 - ・譜久里勝秀・珠子夫妻 (開南教会)
 - ・篠原昭夫・光子夫妻 (首里教会)

A rainbow of Thanksgiving

By: Sr. Josephine "Joy" Agudera, OND

A rainbow greeted me when I first set foot in Miyakojima six years ago. I had the most beautiful feeling of being welcomed by our loving God to this new place of ministry. I was full of hope and enthusiasm to share my faith as a missionary to the people I am sent for.

Slowly reality seeps in that without knowing the Japanese language, how can I, share my faith to the people I am sent for. Instead of me sharing my faith, I struggled to learn basic alphabet so I can join in the mass responses and the hymns. It is a humbling experience indeed. Nevertheless, I would like to look back with gratitude for these past 6 years of missionary presence and will use the symbol of a rainbow. The rainbow has 7 colors and they have biblical meanings and now I would like to see it as a rainbow of thanksgiving.

The first color is red – this symbolize Passion, Blood of Christ/Atonement. Red for me symbolize our community, I thank the Oblates of Notre Dame who has nurtured that basic Call- which is passion for Mission. The second color is orange which symbolize creativity and playfulness. I thank particularly our Miyakojima Filipina migrants who have ensured that the child within me is kept active and alive by our fun filled celebrations and gatherings. The third color is yellow which symbolize sunshine or energy. I thank the children of our Filipina migrants who have shown interest and is actively participating in church related activities. The fourth color of the rainbow is green which symbolize Life and growth. I thank our dear God for beauty of Mother Earth which surrounds Miyako Island. I love the serenity and grandeur of



God's creation which often leads me to prayer. The next color is blue which symbolize Spirituality and Divinity. I thank my spiritual guides, first and foremost is our dear Bishops Berard and Wayne. Bishop Berard who invited us and have been always solicitous of our welfare and also followed by our present bishop, Bishop Wayne. Our Church brothers and sisters in the Diocese of Naha who have also been supportive of our mission sustainability. Our parish priest, Yonabaru sisters and parish leaders who have been a great help in all our undertakings. Indigo, the next color represents Mystical and bridges gap between finite and infinite. I would like to thank our Okinawan culture and traditions who have taught me the value of respecting our ancestors. There is a great respect for people who have gone ahead of us as observed in their daily life and festivals. The last color is Violet which symbolizes the highest form of Spirituality. I would like to thank our loving God who has been faithful to His Covenant, that He journeys with me and assures me of His unconditional love. Doumo Arigatou Gozaimasu.

Announcements!

What: DIOCESE DAY!!!

When: February 11, 2020

Where: Asato Catholic Church

開南教会バザー開催のお知らせ



**日時：2020年2月16日(日)
午前11時～午後2時**



美味しい料理 蚤の市 エイサー 楽しい抽選会
など準備しています。ご近所お誘い合わせて お
越し下さいお待ちしております

那覇教区平和委員会

日 時：2月23日(日) 午後2時～4時

場 所：カトリック安里教会

講 師：石川 清司 氏

(元国立沖縄病院院長・介護老人保健施設「あけみおの里」施設長・首里教会所属)

演 題：患者さんから学んだこと ～縦の軸と横の軸～

カトリック那覇教区平和委員会 問い合わせ ☎090-1949-6569 (稲福)

2月
例会

NPO 法人ぶどう園の会

訪問看護ステーション クララ



TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)

・営業時間 8:30～17:30

・営 業 日 24時間365日(緊急対応含む)





イエスの洗礼あつての 神の子である私達は

ヨアキム・ホアイ神父

真栄原教会 主任司祭



で、洗礼の意味について話したいと思います。
洗礼は他の六つの秘跡と共にイエス様によって定められました。イエス様はヨルダン川で洗礼者ヨハネによって洗礼を受けられたのです。その時イエス様は三十歳でした。洗礼を受けた後、イエス様はすぐに宣教生活に入られました。
その時、洗礼者ヨハネは

カトリック信仰において、私達は神の子供になるために洗礼を受けなければなりません。誰かが教会のメンバーになるためには、まずその人は洗礼を受けるべきです。それで、カトリック教理にとつて洗礼は入門と回心の秘跡と呼ばれるのです。このことについてイエス様はニコデモにこう言われました。「はっきり言っておく。誰でも水と霊とによつて生まれなければ、神の国に入ることはできない」(ヨハネ三・5)。
毎年、特に復活祭の聖夜に洗礼を受けてカトリック信者になる方がおります。私はこのメッセージ

人々が救い主を迎えられるように、悔い改めの洗礼を述べ伝えていました。洗礼者ヨハネの教えと生き証しによつて、多くの人々が神を信じて、彼から洗礼を受けました。イエス様は神の子でありながら、謙遜に多くの人々と同じように、洗礼者ヨハネから洗礼を受けられたのです。
イエス様が洗礼を受けて水の中から上がられると、すぐに素晴らしい奇跡が現れました。天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でイエス様の上に降つて来しました。すると、「あなたは私の愛する子、私の心に適う者」という声が天か

ら聞こえました(ルカ三・21、22)。
イエス様が洗礼者ヨハネから洗礼を受けたことは、父である神の救いの計画を承諾し、福音を述べ伝え、それに伴う自分の受難を受け入れ、救いの証となる復活を示すためでした。そして、そこからイエス様は、救い主としての使命を始めたのです。
ところで人間は神様に対して罪を犯しているの、どんなに頑張つても、自分の力で自分を救うことはできません。私たち罪深い人々にとつて、救いの恵みを受けるために、洗礼を受けることはとても必要なことなのです。
そこで、イエス様は私たちを救うために、神でありながら身を低くして人間の身分になってくださいました。そして、イエス様は、洗礼の道を通して、この世で私たち一人ひとりに寄り添い、共に歩いて、私たちの罪を担ってくださっています。

「洗礼のギリシア語は「Baptisma」で、元の意味は「水に沈めること、浸すこと」です。洗礼者ヨハネが行なっていた洗礼も、初代キリスト教会の洗礼も、人の全身を水の中に沈めるものでした。そこから立ち上がることは、古い命を捨てて、新しいいのちに生きることを意味しています。
洗礼者ヨハネにとつて、洗礼は何よりも回心(すなわち悔い改め)のしるしでした。でも、どうしてイエス様は罪のない人であつたのに、自分自身を低くして私達と共にこの回心のしるしである洗礼を受けられたのでしょうか。それはイエス様がすべての罪人と深く連帯して、一緒にこの世の旅路を歩んで、救いたいと願われたからです。マルコによる福音書で、ゼバダイの子ヤコブとヨハネがイエス様に「栄光をお受けになる時、私どものひとりをあなたの右に、もう一人をあなたの左に座らせてください」と願ったとき、すぐにイエス様は二人に「あなた方は、自分が何を願っているか、わかっているか。この私が飲む杯を飲み、この私が受ける洗礼を受けることができるか」と言われました(マルコ十・35、38)。すなわち、イエス様ご自身が謙遜になつて私達と一緒に苦みの水の中に沈み、私達と共に神の永遠の命へと立ち上がるよう私達を招いておられるのです。この洗礼の出来事の中に、私達はイエス様の生き方全体を表す意味を感じ取ることもできます。そういうことで私達にとつて、洗礼の秘跡は何よりも救いの秘跡です。洗礼のお恵みをいただいた私達は、だれでも救われるのです。
洗礼によつて、私達は三つの大きなお恵みを頂きます。
一つ目は神の子になるお恵みです。
二つ目は聖霊の神殿であること
です。
三つめはキリストの体の一部で、キリストを着る人になり、救い主

としての使命に与ることです。
ここでイエス様が洗礼を受けたことを思い出してください。その時、聖霊がイエスの上に降つてくだされました。同じように聖霊がいつも私たちの上に下つてくださいます。聖霊は私たちが正しい道を間違えないように、誘惑などに負けないように導いて守ってください。私達を私達は信じます。
イエス様のように、私達も洗礼を受けた後、宣教者にならなければいけません。どうやって宣教できるのかとか、どこで宣教するのかなどと自分自身に尋ねるでしょう。
毎日の生活の中で私達は出会う人々にイエス様を紹介することができると思います。かつて洗礼者ヨハネは人々にイエス様をこう紹介しました。「見よ、世の罪を取り除く神の子羊だ」(ヨハネ一・29)。
そして救いの歴史の中で、教会の旅路の中で洗礼を受けた人々は、イエス様の福音を証するために犠牲を捧げて宣教したのです。今日、日本に住んでいる、沖縄に住んでいる大勢の人々はイエス様がまだわかりません。私達はこの人々にイエス様をぜひ紹介しましょう。それは洗礼を受けて神様の子供となつた私達の一つの役割です。
私達自身はイエス様に習つて謙遜になり、救いの道へと歩みましょう。そして、イエス様の道を知らない人びとのために祈りいたしましょう。

2020年1月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時: 2020年1月7日(火) 10:00~12:00 開催場所: 教区センター

1. 報告及び連絡事項

- ・前回(12月会議)の議事録に沿って新田が報告と確認。
- ・司教、司祭、の休暇、会議、研修会等の不在予定。
ウェイン司教、1月14~15日、福岡神学院の静修日担当。1月23~26日、正義と平和協議会の集い。
1月29日、長崎教会管区司教会議、福岡。
- 押川司教、1月8日からベトナム訪問。
- ボスコ神父、1月6日~2月8日、休暇。
- ピーター神父、1月6日~2月6日、休暇。
- ダン神父、1月9日~2月9日、休暇。
- ロドニー神父、1月8日~2月8日、休暇。
- カブチン会、1月27日~31日、黙想会、与那原。本間神父指導。
- マーシーさん、1月29日~30日、カリタス・ジャパン合同会議、援助部会。
- ・2020年三教区合同黙想会について、津波古事務局長より、6月1日(月)~5日(金)の日程案の説明が行われ、承認された。東京教区名誉大司教、岡田武夫大司教の指導で行われる。
- ・ウェイン司教より、名護のノートルダム教育修道会と泡瀬のショファイユの幼きイエズス会の修道院が那覇教区から移転することが発表された。それぞれの修道会が抱える会員の高齢化の問題、それに伴う学校経営等の見直しによるもの。沖縄にきている外国の修道会や信徒たちの力を借りながら、幼稚園運営等に支障のないよう取組んでいくことが報告された。合わせて、教区における両修道会の長年に渡る協力に深謝して、「教区の日」に感謝状を贈ることも報告された。
- ・昨年12月に総会が行われた、教区立の修道会、聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会の総会についてウェイン司教から報告があった。先の2つの修道院の移転と同様に修道会における高齢化等の事情から、八重山修道院から既に移転されたが、新しく会長に選出された Sr.仲大底の下、宣教への熱意を持って修道会としてこれからも小教区と協力して福音宣教の使命を果たす意向であることが報告され、各小教区主任司祭も派遣されるシスター方を同じ使命を果たす司牧チームの仲間として迎え入れ、協働して欲しいとの要請がなされた。
- ・「すべてのいのちを守るために」教皇フランシスコ訪日公式聖歌について、「教区の日」に皆で歌ったら良いのではないかと、信徒からの提言を受け、カンタ・カトリカにリードをお願いしつつ、各小教区でも練習の機会を持って皆で歌えるようにしたい旨、ウェイン司教から要請があり、司祭会議でも了承された。
- ・2019年の霊的報告書について津波古事務局長より説明が行われた。毎年提出をお願いしている報告なので、前年分を参照しながら、信徒数の増減等、正しく数字を記入するよう要請があった。また、幼稚園、学校等を有する小教区は、主任司祭が幼稚園、学校等に記述を依頼し、小教区の報告書と一緒に事務局まで提出するよう要請があった。なお、余談ではあるが入信の秘跡について7歳以上は成人洗礼として三秘跡を同時に授けることが確認された。

2. 審議事項

- ・マーシーさんより2020年の司教訪問予定や、司教の日程の追加変更の聞き取りが行われた。2月は司祭会議がお休みになるので、3月にさらに予定表を詰めることも報告された。
- ・2020年の「教区の日」について。例年通り2月11日の午後2時から安里教会を会場に感謝ミサが捧げられる。司祭、修道者の25周年と50周年該当者、信徒の金婚式の祝福がミサの中で行われるほか、移転される修道会への感謝状の贈呈が行なわれる。典礼はブイ神父と安里教会主任のフランシスコ神父が協力して準備し、各主任司祭たちは、「南の光明」への掲載締め切りの都合上、1月25日までに広報編集部へ報告されるよう要請がなされた。
- ・ウェイン司教から女性と子供の権利を守る相談窓口の設置について、教区事務所に簡単なボックス等を設置して、相談者が相談しやすい環境を整え、そういう窓口があることを「南の光明」でも周知していくなどの対応を検討していることが報告された。

○ その他

- ・1月19日に行われる具志川教会のサントニーニョのお祭りについて、主任のサニー神父から協力の呼びかけがあった。
- ・2月2日に行われるパザーについて、安里教会主任司祭のフランシスコ神父より協力の呼びかけがあった。
- ・カトリック中央協議会より、教皇様への献金の呼びかけがあり、趣意書と振込み用紙を配って、各小教区でも呼びかけされるよう協力要請があった。
- ・次回の司祭会議は3月3日(火) 10:00~12:00教区センター(安里)で行われる。
なお、2月12日(水) 午前10時から顧問会と宗教法人責任役員会の合同会議が行われる。

二〇二〇年、平和の祭典・東京五輪が世界の夢と期待のもと、間もなく開催されますが、遡って五十六年前の東京オリンピックの年に初めて、カトリックの友人に連れられて名護教会を訪れ、公教要理を学んだ事が私の信仰生活のスタートラインとなった。

あれから半世紀余が過ぎた今も時間を超越しておられる神様は、日々新しく驚きと感動を与えてくださっている。ごミサの中でイエス様は、小さな存在である私たちを清め、聖なる食卓に招き、ご自分の体であるご聖体を分け与え愛の絆で一つに結んで下さっている。

主の御前で共に祈れること、賛美の歌をうたえる事に心は喜びに満たされる。

さて一月十九日(日)、

具志川教会では第十五回・

サントニーニョフェスティバルが開催された。初めは二〇〇三年、石川教会の巡回教会だった具志川教会が小教区となり、初めての主任司祭になられたステイブ神父のもと、幼きイエス様のフェスティバルがカデナ基地内教会フイリピン信徒の方たちが主体となり、具志川教会を会場に行われた。その時の献金が駐車場整備のために捧げられ、その後も毎年のサントニーニョフェスティバルやボランティア活動で具志川教会を支えて下さっている。

二〇〇五年には、具志川教会主催となる第一回目が開催された。その後、歴代の神父様方が頑張り引き継いでく

ださり、今年大きな節目を迎えた。今回はフイリピン・サントニーニョ教会出身のサニ神父を先頭にたくさんの方の協力、奉仕をいただき、合わせてフイリピン信徒の皆さんの幼きイエス様のへの熱い信仰が大きな力となり、中心となつて準備が進められた。

今年も九日間のノベナのミサから始まり、近隣教会の神父様方のミサ司式をいただき、信徒の皆さんも駆けつけて来られた。最終日は押川司教様がお見えになり歴史を語って下さった。約四五〇年前、マゼランによって初めて

たて軸よこ軸

明日に向かって

具志川教会 高江洲 政子

キリスト教がフイリピンのセブ島に伝えられて最初のクリスマスチャンが誕生、その時幸運のシンボル幼きイエス様の肖像が贈られた事が説明された。そして今では「サントニーニョが具志川教会でも伝統になった」と嬉しいご感想を述べてくださった。

翌十九日、いよいよウエイン司教様をお迎えしミサがはじまった。入堂は格調高く光に包まれた幼きイエス様のもとに、沖繩、フイリピン、アメリカと聖堂を埋め尽くす信徒が集い入祭の唄が始まる。神様の前では国の違いはなく皆等しく兄弟姉妹、フイリピンの方たちの大切なものを皆が大切に思い

喜びを共に喜び合う。

幼きイエス様のミサでウエイン司教様のお話は「救い主イエスは宮殿でもなく、王としてでもなく、か弱い幼子としてこの世にいられた。子どものように完全に信頼すること。子どもに戻つて聖なる者になりなさい」。

シンプルなおメッセージの中に「神を賛美しながら生きる」この言葉が心に残った。ミサの終わりに美しく飾られた幼きイエス様のご像がシヌログの踊りに先導され、祈りと共に行列がはじまった。この日はお天気にも恵まれ、続くフェスティバルのアトラクションがトニー・佐久田さんの名司会で楽しく進化した。

今回、サニ神父は初めて教会と隣接している保育園にも参加を呼びかけた。当日、子どもたちはアトラクションに出演、飛び跳ねるようにかわいいたちは先生といっしょに教会の広い境内をお散歩したり夏にはセミを追ったりしている。教会設立の時、石神司教様のお言葉のように「復活のキリストの御栄のために捧げられたこの聖堂と境内が、ただ主日の集会のためだけでなく、広く一般にも解放され地域住民との交流の場になるように」と語られたお言葉がこれから先も広がっていくように、地域の皆さんとの出会いの場になるようにと願いたい。

第十五回サントニーニョフェスティバルを終え、教区の皆さまに心からの感謝を申し上げます。

心からの感謝！

今月の「司祭助祭拡大会議・議事録」に報告されているように、那覇教区にとって創立当初からの恩でもある2つの修道会が教区を離れることになった。

1960年に来沖され、泡瀬聖母幼稚園とコザ聖母幼稚園を担当して下さっていた、「ショファイユの幼きイエズス修道会」と、1961年に「キングスクール」での教育に携わるために来沖し、閉校後は1975年から、名護の「うみのほし幼稚園」で幼児教育を担当して下さ

っていた「ノートルダム教育修道女会」である。2つの修道会が那覇教区で果たされた役割は大きい。幼児教育や教会での活動を通して、信仰に導かれた信徒も沢山おられた。「議事録」でも報告の通り、教区における両修道会の長年に渡る協力で深謝して感謝状が贈られる。

それぞれの修道会が今後も教育を通じた宣教活動に邁進して下さることを願って止まない。

ありがとうございました。

(教区報編集委員会)

修道会だより

聖マリアの汚れなき み心のフランシスコ姉妹会 総集会終る

本修道会では去る十二月二十六日から三十一日まで五日間に亘り、与那原聖クララ修道院で四年に一度開催される総会が、全姉妹（病人を除く）参加で行われました。

今回はウエイン司教様が、初日の聖霊ミサから最終日の派遣ミサまで、毎朝のミサを司式されたばかりでなく、総会全日程にご出席され、見守ってくださいました。そこには那覇教区立の修道会であるという特別な想い入れがあり又、責任を引き受けて下さったことで、私たちにとって本当に有難く幸せなことでした。

修道会の総会は、神の国建設の為に集まりの場といわれます。今総集会を開くに当り、私たちは「御父の救いのみ業である愛

と平和のプロジェクトに参加する為に」というテーマを掲げました。

総会に提出された提案事項は十一項目にものぼり、三日間かけて真剣な討議が行われました。自由な雰囲気の中で多くの発言があり、一人ひとりの思いをゆつくり聞き合うことができたことは、この上なく有意義なことでした。その中で年配の姉妹たちが特に心を熱くしたのは、若い



姉妹たちの成長をその発言の中から確認できたことでした。

それは彼女たちの心の中に本修道会への愛と、主の道を歩み続けようとする決意がしっかりと育っていたからです。私たちは弱く小さな群れですが、主の愛と慈しみのうちに、このように希望の光を見る恵みを頂くことができました。とは言え、長年の悲願である那覇教区からの召命は未だ叶えられておらず、大きな課題を残しています。

レイ司教様が本会を創立したのは唯一つ、沖縄宣教のためでした。私たちはその使命を片時も忘れることはありませんが、召命がなければ、無い袖は振れないのです。確かにベトナムからの彼女たちは立派な成長ぶりを見せています。しかし、言葉の壁、文化の壁を乗り越える為、働く為の資格取得の勉学の為、最低十年がかかっており、費用も莫大です。そして、これからの宣教の場では外国人ゆえの困難と苦勞があります。それでも外国からの召命があれば嬉しいことです。基本的には自教区の宣教は自教区の手でという切なる思いはつのるばかりです。高齢化や世代交替の問題を抱えながら、総会四日目には会長選挙が行われ、シスター仲大底利子が次期会長に選出されました。

した。彼女はこの困難な時にこれら困難な重責を、聖マリアの「なりますように」という神への従順に倣い、涙しながら受け容れてくれました。

最終日、私たちはすべての事を案を決議し、皆が心に温め続けてきた思いを確認し合って、次の合言葉を生み出しました。

「私たちは福音宣教師です。マリアの心でフランシスカンとして出かけよう！」

そうです、神の愛と平和を伝える為に、私たちは自分の殻から出てマリアの心でフランシスコの謙遜を身にまとい、人々の

「声」 角笛

「沖縄宣教の歴史」講演を 聞いて②

真栄原教会 宮良安都

一九四六年十二月十五日ガブリエル神父から沖縄布教の上申を受けた際にマレラ大司教の脳裏に浮かんだのはレイ神父とカプチン会であったというから驚きである。それで東京駐在マレラ大司教はガブリエル神父の上申を基にその人選、修道会選定でバチカンの布教省長官に再上

申したのであった。待つてましたとばかりに、人

中に出て行く生き方が求められています。那覇教区の皆さん、私たち姉妹たちと心を合わせて、どうかこのような生き方を望む姉妹を神様が私たちと与えてくださるよう祈り、そして行動に移して下さるよう心からお願ひいたします。

三十一日の夕方、ウエイン司教様と共に聖霊の助けを願い求めて、派遣のミサを捧げ、総会は終了しました。こうして今、私たちは新たなスタート点に立ちました。これからも教区の皆さんのご支援をお願いいたします。

(シスター中村睦子)

間関係も都合よく作用した。マレラ大司教は第四代東京駐在教皇使節で、上申先のバチカン布教省長官は何と初代東京駐在教皇使節のフマソニ・ピオンディ大司教でお互い知り合いで、加えて日本、奄美、琉球に関心のある間柄であったというから驚きである。

バチカン布教省にはこの沖縄宣教についてのマレラ大司教からの上申と米国メリーノール会レイン司教からの進言が届いていて、この二つをマレラ大司教案で応じることに決定した。

何と受け付け六日後にカプチン会ローマ本部経由、米国カプチン会本部にマレラ大司教の上

申に沿った発令をした。レイ神父沖縄派遣とグアムのカプチン会司教が琉球の教区長を兼ねることがその内容で、これはカプチン会が沖縄宣教に選ばれたことを意味した。

なぜこんなにトントン拍子に事が進んだのかの秘密は今回の講演会の切っ掛けの一つとなった小緑教会聖堂前の戦没者モニュメントに記されている「ジェローム・コベル神父のエピソード」が影響している筈だと私は思う。ジェローム神父のエピソードはその時既にローマ・カプチン会に伝えられていて、それはバチカンの布教省にも伝わっていた可能性はあると思うからである。

ジェローム・コベル神父の乗った軍艦はUSS CURTIS (AV4)と一三四七五トン、将校一〇〇名、乗組員一〇三五名で、ジェローム・コベル神父は従軍司祭(チャプレン)であった。一九四五年六月二十一日座間味近海を航行あるいは停泊中に甲板で腰掛けていた時、神風特攻隊の攻撃を受け、手を合わせ、頭(こうべ)を前に垂れた状態で亡くなった。頭に銃弾を受けていた。

押川司教は話されなかったが、腰掛けていた時に日本軍の飛行機が突っ込んで来たのに気づいた

た時には身をかわす余裕はなく、咄嗟に腕を前へ伸ばし迫り来る特攻機に向かって十字のしるしをし、そして両手を合わせて祈りの姿勢を取ったと考えられる。十字のしるしをする様子が隣

にいた米艦船の記録記者のフィルムに撮られていて、これがテレビのドキュメンタリーで放映されたと言う。この特攻隊の攻撃で三十五人が戦死し、二十一名が負傷したのだから、飛行機からの銃掃射だけでなく文字通り特攻したと思われる。ジェローム神父は椅子に腰掛けて両手を合わせて頭を前にした状態で死んでいたというのだから、自爆した飛行機とは距離があったのだらう。その軍艦は沈没することなく帰国し、後年解体されたという。

ジェローム神父が迫りくる相手に十字のしるしをしたのは「祝福のしるし」で、その後両手を合わせたのは「祈ろう」としたからと思われる。敵への祝福は愛の実践そのもので、祈りは最期を迎える者としてふさわしい姿である。沖縄の戦場で起きたこの出来事はローマ・バチカンに沖縄の地がキリストの教えを求めている地として伝わったのではなかろうか。そしてそれはジェローム神父がカプチン会員であったことも沖縄宣教にカプ

チン会が選ばれた遠因となったと私には思えてならないのである。

最後にジェローム神父 JEROME KOBEL OFM CAP 一九〇二年生まれ(享年四十三歳)について記すと、ジェローム・コベル神父は座間味島近海の艦船上で戦死し、座間味島で一旦、他の米軍戦死者と一緒に仮の墓に埋葬され、後に米国本土のアーリントン墓地に移され、更にそこからニューヨークのヨンカーズにあるカプチン会墓地に移された。ヨンカーズのカプチン会墓地と言えば、現在ここにはオーバン神父、マルティン神父、デニス・ドナー神父など、恐らくルイス神父も含め、沖縄とゆかりのある神父たちが埋葬され永遠の眠りにについているところである。

小緑教会聖堂前のモニュメントに記されているジェローム・コベル神父の JEROME KOBEL は修道名で実名は JOSEPH JAMES KOBEL である。

平和の礎には実名になっていて、ファミリネームを先にしミドルネームは一字で示し「KOBEL JOSEPH J」と刻銘されている。

ファミリネームを先にするのは捜し易くするためで外国人名はすべてそうになっている。

教区 NEWS 教会

石垣教会ニュース

①司祭・助祭会議

十一月五日、当教会で司祭・助祭会議が、二年ぶりに行われました。司教様主司式によるごミサで教区の司祭、助祭様が参加しました。

過去を振り返ってみると、先人たちの労苦と人々の不思議な関わりの上に今の那覇教区がある。それは紛れもなく神の御導きに支えられてのもので、その時々琉球における福音宣教のまさにギリシア語で言う時間概

念の一つである「カイロス(重大な意味を持つ決定的瞬間)」であったと言えます。私たちは先人に倣い、更に「沖に漕ぎ出す勇氣」が求められています。これから未来にきつと祝福のドラマが待っていると思う。

ミサ後行われた懇親会は、八重山風やフィリピン風や持ち寄りのおもてなし料理を味わっていただき、余興は、子どものコーラスやマイケル神父様と教会若手の稽古積み上げのニューミュージックダンスなど。そして、神父様方の心強い宣教宣言のような発信、歌声やウィットに富んだ出しものに拍手盛ん。

恵みのラストは、八重山民謡聖歌『愛のみなもと』を三線伴奏つきでみんなで唱和し、恵みのひと時に感謝しました。

翌日は、九時より「八重山キリシタン事件について」、殉教者石垣永将研究会の玉城功一さんが講話しました。

殉教者と摂理的な結び付きの深い石垣教会として、殉教四百年を前に八重山のキリシタン弾圧や歴史背景を語り継ぐために、列聖列福の願いをこめて資料にそって伝えました。押川司教様から、列福や列聖等について、指導助言も頂きました。石垣教会は、大きな恵みいっぱい二日間でした。



② 司教様の公式訪問

十月十九・二十日に、ウェイン司教様は公式の訪問をしてくださいました。初日は夕食会を持ちました。分かち合いで信徒の声に耳を傾け、優しくお答えくださる心遣いに感謝しました。

二十日の主日、司教様とマイケル神父様の共同司式でミサが捧げられました。司教様は説教の時に祭壇から降り、信徒とおなじ目線で、『求めよう神のちむがなさを！』について「大きなことをする必要はありません。小さなことに大きな愛をこめて、ぬちどう宝に生きること」と手を広げ、愛のまなざしをむけて語りかけてくださいました。堅信のお恵みは三名。アンナ石垣由紀、ラファエル崎山盛仁、モニカ仲盛百恵が頂きました。

懇親会でも教会共同体に係わり、常に心を開いてと話されました。

また、今後 石垣で宣教の使命を担っていただくフィリピン人の ODN (オペレート・ノートルダム修道女会) の総長様、新しく赴

任のシスターアイビーが紹介されました。司教様の祝福と励ましの言葉で、公式訪問は終わりました。(河口儀子通信員)

③ 主に捧げる二十四時間

十月に、教皇様が定められた「福音宣教のための特別月間」の小教区での取り組みの一環として、教区より提案のあった聖体賛美式で「主にささげる二十四時間」を遅ればせながら、当教会でも十一月十日の主日のごミサのあとに執り行いました。十月中の主日のごミサでは、主任司祭マイケル神父様の説教で、福音宣教についてのお話しが聞けてはいましたが、前の週に、教区の司祭・助祭合同会議の石垣島での開催などがあり、実行する時期がずれてしまいました。

ごミサ終了後に休憩をはさみ、三十分間隔でのお祈りと、先唱のリーダーは一時間ごとに受け持つこととして、賛美式を始めました。

参加できる信徒は、そう大勢ではなかったものの、午後八時から最後の祈りまで、

洗礼おめでとございます

安里教会

二〇一九年十二月二十四日

アシジの聖フランシスコ 土井隆彦

二〇二〇年一月十二日

アシジの聖フランシスコ 仲田信弥

「主にささげるこの祈りの時間によって、ともに喜びをもって福音を伝えることができま

すように」と参加した信徒一同、心をひとつにして祈ることができました。

典礼聖歌の「全世界

に行つて、福音を述べ伝えよ」は、よく歌われる聖歌ですが、宣教国の日本、そして那覇教区には、「フィリピン宣教会」からの派遣のお恵みがあり、当石垣教会にもこれまで何名かの神父様を那覇教区から派遣していただきました。今後、那覇教区の司祭団とともに宣教のご活躍を祈念します。

聖体賛美式のあとには、マイケル神父様のご提案で、ロザリオを捧げました。死者のため、教区の司教、司祭、シスター、信徒のため、また、召命が芽生えるため、特に那覇教区からの召命がありますように、との願いを込めて祈りました。(平良秀司)

計 報

◆南静園教会

ヨハネ 川満 時彦 様

二〇一九年十二月二十二日帰天

◆コザ教会

クララ 金城 榮子 様

二〇一九年十二月二十七日帰天

◆石垣教会

ヨハネ 上地 一弘 様

二〇一九年十二月二十八日帰天

◆開南教会

マキシモ 山入端 勇 様

二〇一九年九月二十日帰天

◆マキシモ

マキシモ 山入端 勇 様

二〇一九年九月二十日帰天

◆テレジア

テレジア 昭屋 静子 様

二〇一九年十月三十一日帰天

◆マキシモ

マキシモ 山入端 勇 様

二〇一九年九月二十日帰天

◆マキシモ

マキシモ 山入端 勇 様

二〇一九年九月二十日帰天



葬祭の
「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里鳥掘町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

http://w1.nirai.ne.jp/yasurai

E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間
受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～

そうてんしゃ

葬 典 社

*創業30数余年・・・。

*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。

*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひ が たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく

☎098-853-1059

